

## 開会挨拶

代表世話人 野村英隆

みなさん今晚は、お忙しいなかシンポジウム『損保代理店の社会的役割を考える』に参加いただきまして、ありがとうございます。多くの損保の現役とOBのみなさん、代理店、共済・生協関係のみなさんの出席のもとで開会できることを互いに喜びあいたいと思います。初めて参加された仲間と遠来の仲間にも歓迎の意を表明します。

大阪損保革新懇は今年、12年目の活動に入っています。昨年8月の総選挙で国民は自公政権に歴史的な厳しい審判を与えました。国民が主権を発動して、日本の歴史上初めて保守政権を退陣させたことは大きな前進でした。私たちもその一員として闘いました。9月に民主党を中心とする連立政権が誕生しました。当初、新政権は自公路線からの脱却と自らの『マニフェスト』路線を実践する姿勢を示しました。これらは総選挙で示された国民の強い要求に応えはじめているかのように、また私たちも革新三目標実現の方向と重なっているかのような期待感を寄せたことも否めませんでした。

しかし、新政権発足後6ヶ月経ちましたが、この間、政治とカネの問題、財源問題、景気雇用対策、米軍基地問題など自公政権と大きく変わったといえるものはなく、国民の期待を裏切っています。今や内閣支持率は30パーセントを切っています。とりわけ、普天間基地問題については自ら言い出した「5月末までに解決」をどうするのか追い込まれています。

結局のところ、政権はかわったけれども、財界やアメリカにモノが言えないという従来の政治の枠組みから抜け切れていないところに、最大の問題があると思います。では、国民は自公に戻ろうかという気持ちかと言えばこれも違う。すでに自民党は離党・脱党者が続き、崩壊の道を歩みだしている情勢も生まれています。やはり「どちらもいやだ、本当に国民生活向上の方向に向いた政治に変わってほしい」という期待がますます強くなっています。このたびの京都府知事選挙で門候補は「オール与党」相乗り候補と闘い善戦しました。本当に『国民が主人公』の新しい日本の路線を実現するために夏の参議院選で勝利のため奮闘したいと思います。やはり、『革新懇の出番』だということを改めて確認したいと思います。

損保では今月から第二次再編、合併・統合が始まりました。これにより三大メガ損保グループ体制がスタートし、外国では類のない異常な寡占化体制に入りました。3グループが覇権を争うという他産業でも例のない産業に入りました。この体制は契約者・従業員・代理店のためでなく、ひたすら「規模の拡大と効率化」の『利潤第一主義』へ突き進んでいく方向だと考えます。さらに「統合から合併へ」という情勢も強くなっていくと思われれます。共済つぶしの攻撃も相変わらず続いています。

このような情勢のもとで、私たちは2008年と2009年にもシンポジウム『損保と共済の社会的役割』を開催し、社会的に問題提起をおこなってきました。今回は第三回目のシンポジウムとして損保の代理店問題を中心に討論したいと考えます。第一講演は大阪府保険医協会事務局長の杉嶋さんから『共済をめぐる情勢』についてお話いただき、ついで大阪損保革新懇松浦世話人から最新の損保情勢を分析して、報告します。そのあと、みなさんからの報告と決意を語っていただきたいと思います。

「最後になりましたが、日勤外勤の仲間は外勤制度と雇用を守るためたかかってきましたが、このほど和解解決を勝ち取りました。この時期に、外勤制度や損保と共済をテーマとする三回目のシンポジウムを開催することは意義があります。国民生活に軸足を置いた保険と共済の社会的役割の発揮をめざす運動が発展することと私たちも奮闘する決意も込めて開会の挨拶といたします。ありがとうございました。